ラデン・サレー

レオンハルト・バルトロメウス

ラデン・サレー（1807年生、1880年没）は、ジャワ（旧･蘭領東インド）出身の画家の草分け的存在であり、ロマン主義的な風景画に深く傾倒した。20年間ヨーロッパで学び、19世紀に隆盛したロマン主義絵画の影響を受けたのである。アラブとジャワの血を引くラデン・サレーは、さまざまな要素を用いながら、自身の文化的ルーツをしばしば自作の絵画に描き出している。また、1852年にヨーロッパから帰国した際は、ヨーロッパ滞在中に住居としていたカレンベルク城を模して家を建てた。この自宅は現存し、一部は公営病院に改造されている。ラデン・サレーはヨーロッパ旅行から戻った後、西ジャワのボゴールで没した。

高い人気を誇る一方で、インドネシアの多くの美術史家や批評家は、ラデン･サレーを“インドネシア人画家”と見なすべきかどうかについての議論をいまだ続けている。彼の生きていた時代に、インドネシアが国家であるという概念はなかったが、ラデン・サレーは、たびたびオランダの植民地主義に対して政治的な見解を示した。それは、とりわけ《ディポヌゴロの拘束》（1857年）に顕著である。とはいえ、ラデン・サレーが描く歴史は、東南アジア美術史において、植民地主義と近代美術がどのように平行線を辿ったのかに言及するものと言えよう。サレーは、同じくロマン主義に関心を寄せ、母国の植民地化状態に批判的だったフィリピンのフアン･ルナと比較されることが多い。

ラデン・サレー、1863年〜1866年頃、Woodbury & Pageより
https://www.rijksmuseum.nl/en/collection/NG-2011-31-30

ラデン・サレーのバタヴィアの屋敷、1875〜1885年頃、Woodbury & Pageより

ラデン・サレー《鹿を追う６人の騎士》1860年、キャンバスに油彩、106 x 188cm
©Gift of Mrs. Sally Burbank Swart

関連リンク

- A short description about Raden Saleh http://www.nusantara.com/heritage/raden.html
- Article about Raden Saleh in correlation with the exhibition at Nasional Gallery Singapore, 2018 https://jakartaglobe.id/culture/raden-saleh-artist-of-two-worlds/
- Another insight about Raden Saleh journey of life https://web.archive.org/web/20110727195041/http://www.raden-saleh.org/english.html